

この報道写真展は1月16日～1月30日の開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により1月8日、首都圏に緊急事態宣言が出されたため開催を延期していました。

報道写真展

日本人の働き方

100

100 Years of Japanese Work Styles:
A News Agency as Eyewitness

年

定点観測者としての通信社

会期

2021年11月14日①→11月28日②

10:00-19:00 (初日12時から/最終日18時まで)

会期中無休

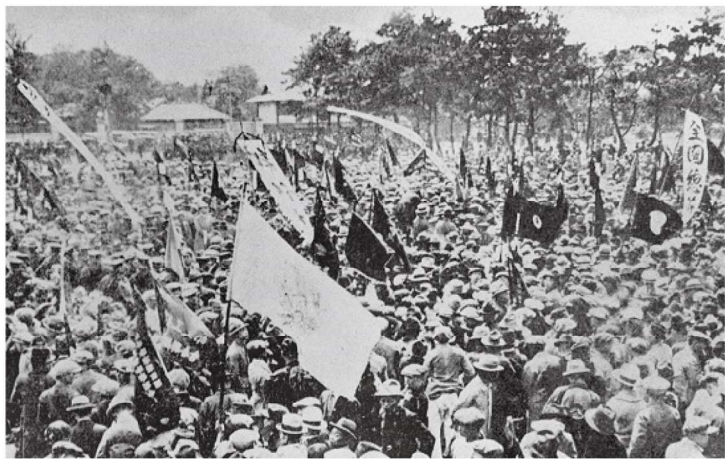
会場 東京国際フォーラム ロビーギャラリー

入場無料

主催 公益財団法人新聞通信調査会

協力 共同通信社

新聞通信調査会
JAPAN PRESS RESEARCH INSTITUTE



上から ①日本初、100年前のメーデー | Japan's first May Day rally 100 years ago ②ウーマンリブ・グループが各地に誕生 | Women's liberation groups sprout up ③「過労死許すな」と夜のデモ行進 | Protest against labor reform bill ④ハノイの送り出し機関で日本行きを目指す候補生 | Training ground for Japan-bound Vietnamese

100年前の1920年5月2日、日本で初めてのメーデーが東京・上野公園で開かれました。第1次世界大戦後の不況による失業防止や最低賃金制などを求めました。当時、多くの争議も起きて労働条件は徐々にではありますが改善の道をたどるかにみえます。しかし、その後の日中戦争・太平洋戦争はすべてに暗い影を落としました。

戦争が終わっても波乱は続きました。第4次中東戦争をきっかけとする原油価格の急激な上昇は、激しいインフレとなって私たちの生活に襲い掛かってきました。日本のバブル崩壊や米国発のリーマンショックは多くの人の職を奪い、労働条件を切り下げました。近年では格差拡大が非正規雇用の労働者や外国人労働者を直撃しています。2020年に起きた新型コロナウイルスの世界的感染拡大(パンデミック)に私たちの働き方は大きく揺さぶられています。

12回目となった報道写真展シリーズ「定点観測者としての通信社」は、メーデー100年を機に私たちの働き方を振り返ります。100年間のできごとに、その時々暮らしぶりや働く女性の姿を織り交ぜた約140枚の写真で構成しました。100年を回顧する中で、ポスト・コロナの働き方を考える一助となれば幸いです。

●会場

東京国際フォーラム ロビーギャラリー

東京都千代田区丸の内3丁目5番1号

<https://www.t-i-forum.co.jp/access/access/>

●交通

JR線：有楽町駅より徒歩1分／東京駅より徒歩5分

地下鉄 有楽町線：有楽町駅（B1F地下コンコースにて連絡）

千代田線：二重橋前駅より徒歩5分／日比谷駅より徒歩7分

丸ノ内線：銀座駅より徒歩5分

銀座線：銀座駅より徒歩7分／京橋駅より徒歩7分

三田線：日比谷駅より徒歩5分



- 37.5℃以上の発熱、せき・のどの痛みなどの症状がある方の入場はご遠慮ください。
- マスクを着用し、観覧の際は他の観覧者との距離をできるだけお取りください。
- 会場には消毒液のご用意があります。

●主催：公益財団法人新聞通信調査会

東京都千代田区内幸町2-2-1日本プレスセンタービル1階

